

令和元年度 高松空港の計器着陸装置の高カテゴリ化 (CATⅢ) 検討調査業務 成果概要

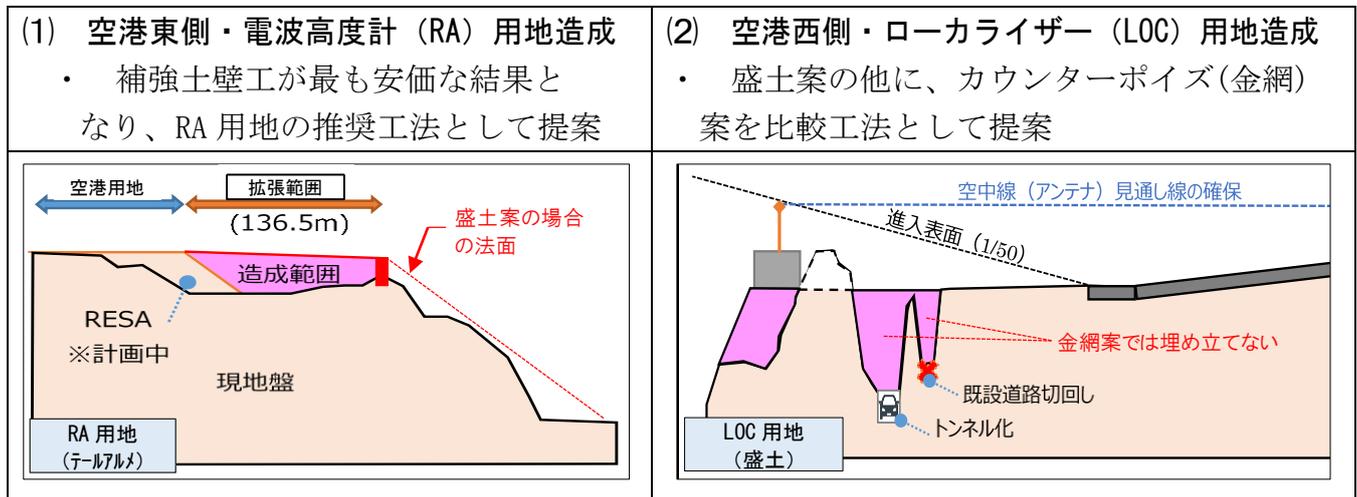
(業務目的：高松空港のCATⅢ実現に向け、費用便益比向上策を検討し、国に提案するもの)

1 費用便益比(B/C)の算定結果

		国	ケースA	ケースB	ケースC	ケースD
需要の設定		上位	中位	中位	上位	上位
整備工法	東側(RA用地)	人工地盤	テールアルメ	テールアルメ	テールアルメ	テールアルメ
	西側(LOC用地)	盛土	盛土	金網	盛土	金網
費用		75.0億	56.0億	56.0億	56.0億	56.0億
便益		54.0億	59.9億	59.5億	63.9億	63.5億
B/C		0.72	1.07	1.06	1.14	1.13

2 費用削減策の検討

電波高度計 (RA) 用地、ローライザー (LOC) 移設用地の整備工法について比較検討を行った。



3 便益向上策の検討

国の費用対効果分析マニュアルにおいて、分析対象となっていない効果について貨幣換算を行い、便益の定量化を検討した(下記の数値はいずれも「社会的割引後」)。

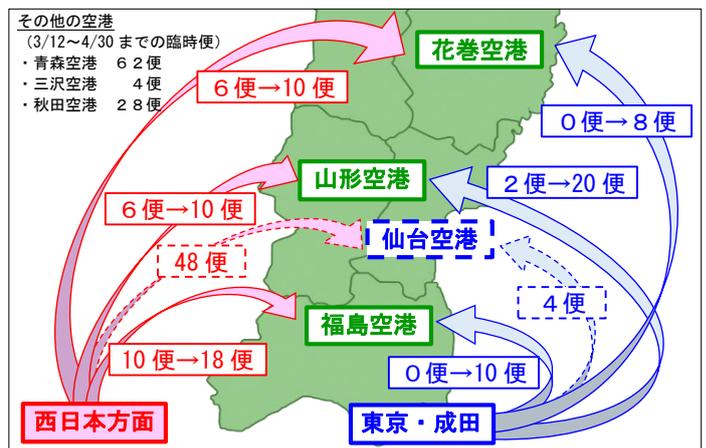
(1) 就航率改善による航空利用転換による便益

(条件付き運航便の減少による航空利用転換による便益を含む)

➡ 転換便益：約 15 億円

(2) 大規模災害発生時の機材大型化に伴う便益

➡ 機材大型化便益：約 0.5 億円



出典：国土交通省 東日本大震災における空港を利用した活動状況と課題